

多賀城市立高崎中学校の生徒らが当センターを訪問しました(2011/10/12)

10月12日(水)、多賀城市立高崎中学校(宮城県)の中学生24名が当センターを訪問しました。今回の訪問は、高崎中学校の第2学年の「総合的学習の時間」における進路学習のための体験活動として企画されたもので、24名の生徒さんたちは、訪問先として当センターを選んでくれた皆さんです。教員の引率はなく、生徒さん達だけでバスを乗り継ぎ来てくれたそうです。1時間目は地震地域災害研究室の源栄教授から、緊急地震速報の利用や活用について講義を受けました。実際に3月11日の東北地方太平洋沖地震以降、緊急地震速報を何度も体験しているので、どの生徒さんも熱心に聞いていました。2時間目は津波工学研究室の講義で、最初にアナワット研究員からチリ地震津波のCGなどで地震が無くても遠くからやってくる津波もあることや、ハワイなどは自分の地域で津波が起こらなくてもいろいろな地域で起こった津波の通り道になっていて、何度も被害を受けている事などを興味深く聞いていました。後半は、実際に頭と手を使ってもらおうということで、保田研究推進支援員の指導のもと6~7名のグループになってもらい、HUG(避難所運営ゲーム)をやりました。今回避難所生活を体験した生徒さんもいて、次々やってくる避難者や物資をどのように管理するのかそれぞれの班で、議論が紛糾していました。お話を聞いて、実際にゲームをやる事で防災意識は彼らの中で高まったようでした。センターに来たばかりの当初は緊張していた生徒さん達も、ゲームをやって帰る頃には話かけてくれたり、外を眺めて、眺望の良さに驚いたり、元気に帰って行きました



講義を行う源栄教授



講義を行うアナワット研究員



HUG中の高崎中生徒さんと今村教授